

吉祥樂舞団による台日文化交流促進 充実感と有意義な生活

1月11日に吉祥樂舞団が日本NPO法人国際BLIAの代表として、栃木県小山市の小山グラウンドホテルで行われた「大久保としお後援会」の新年会に出演しました。この新年会には政府機関や現地の団体から、約500名が出席しました。

吉祥樂舞団は台日文化交流促進の使命感をもって台湾の山地舞を披露しました。鮮やかな民族衣装を身に着け、軽快な音楽に乗り、明るい笑顔で踊りました。佛光山の星雲大師の「人々に喜びを差し上げる」という精神と、台湾人のお客様へのおもてなし精神を十分に表現しました。台湾にいるかのように文化交流の体験ができ、出席者はとても喜んでいました。

ほかには有名な中国の歌や「太極扇」（扇を使って行う太極拳）のパフォーマンスも行いました。太極拳の「柔よく強を制し、剛よく柔を断つ」を表現する白文美さんの動きは、とても素晴らしいものでした。

吉祥樂舞団の演技の後、団員の劉佳敏さんは次のように話しました。「家庭で様々な事があり、大変ストレスが溜まっていたのですが、樂舞団に入ってから生活が充実してきました。そして、人生に対しても、精進し続けることであるという見方になりました。特に、今までずっと悩んでいたことが自利利他の精神に触れることで、おおらかに受けとめれば良いと考えられるようになりました。また、お寺での練習は実家に帰ったように温かく感じています。今は元気に、自信を持って、生き生きと暮らせるようになりました」。

団員の祖研さんは、「踊りで人々と交流することが大好きですし、『給』（差し上げる）という精神もとても楽しいものです。もっと練習して、皆さんに喜んでいただきたいです」と話しました。

普段、大人しい陳杏玲さんは、「舞台上で踊れることがとても嬉しいです。観客の皆さんの喜ぶ顔を見ると、とても意味のあることだと感じます」と話しました。

また団員の李麗真さんは次のように話しました。「樂舞団に入った初めの頃は、十分に努力をしていませんでした。しかし、何回かの慈善公演の後、このご縁をもっと大事にしなくてはいけないと感じるようになりました。『千載一遇、一遇千載』であり、自分ももっと努力し、皆と力を合わせ、最善を尽くすことが、佛光山の代表として出演している者の使命だと気づきました」。

最後にリーダーの李莉莉さんが次のように話しました。「団員の皆さんが一生懸命練習し、出演してくれることに感謝しています。吉祥樂舞団が人々に喜び・努力・信念の心を持ってもらえるようになることを期待しています。これからも慈善活動のために団員の皆で力を尽くしていきましょう」。